2019年3月期
決算説明会

1.当期決算の概要（連結）
2.次期業績見通し
3.中期経営計画 TRANSFORM 2020の進捗状況

2019年5月15日

日本光電工業株式会社

証券コード ： 6849

https://www.nihonkohden.co.jp

Fighting Disease with Electronics
NIHON KOHDEN

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

1 当期決算の概要（連結）

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

1）当期の決算概要

（単位：百万円、単位未満切捨て）

	前期 2018/3	当期 2019/3 期初予想	当期 2019/3 実績	当期 2019/3 対前期増減率（%）利益率変化（p）
売上高	174,249	*180,000*	**178,799**	2.6
国内売上高	128,144	*130,700*	**130,223**	1.6
海外売上高	46,105	*49,300*	**48,575**	5.4
売上総利益	82,759	*86,800*	**85,987**	3.9
（売上総利益率）	47.5%	*48.2%*	48.1%	0.6
営業利益	14,517	*15,000*	**15,044**	3.6
（営業利益率）	8.3%	*8.3%*	8.4%	0.1
経常利益	14,501	*15,000*	**15,867**	9.4
親会社株主に帰属する当期純利益	9,154	*10,300*	**11,191**	22.3

平均レート	（2018/3）	（2019/3）	（2019/3）
1米ドル	111.0円	105円	110.8円
1ユーロ	130.0円	130円	128.5円

為替影響除く：+6%

自社品売上比率　2018/3　64.0%　2019/3　64.8%

為替差損益　2018/3　差損733百万円　2019/3　差益85百万円

【特別損失】　2019/3
訴訟損失引当金繰入額※：285百万円

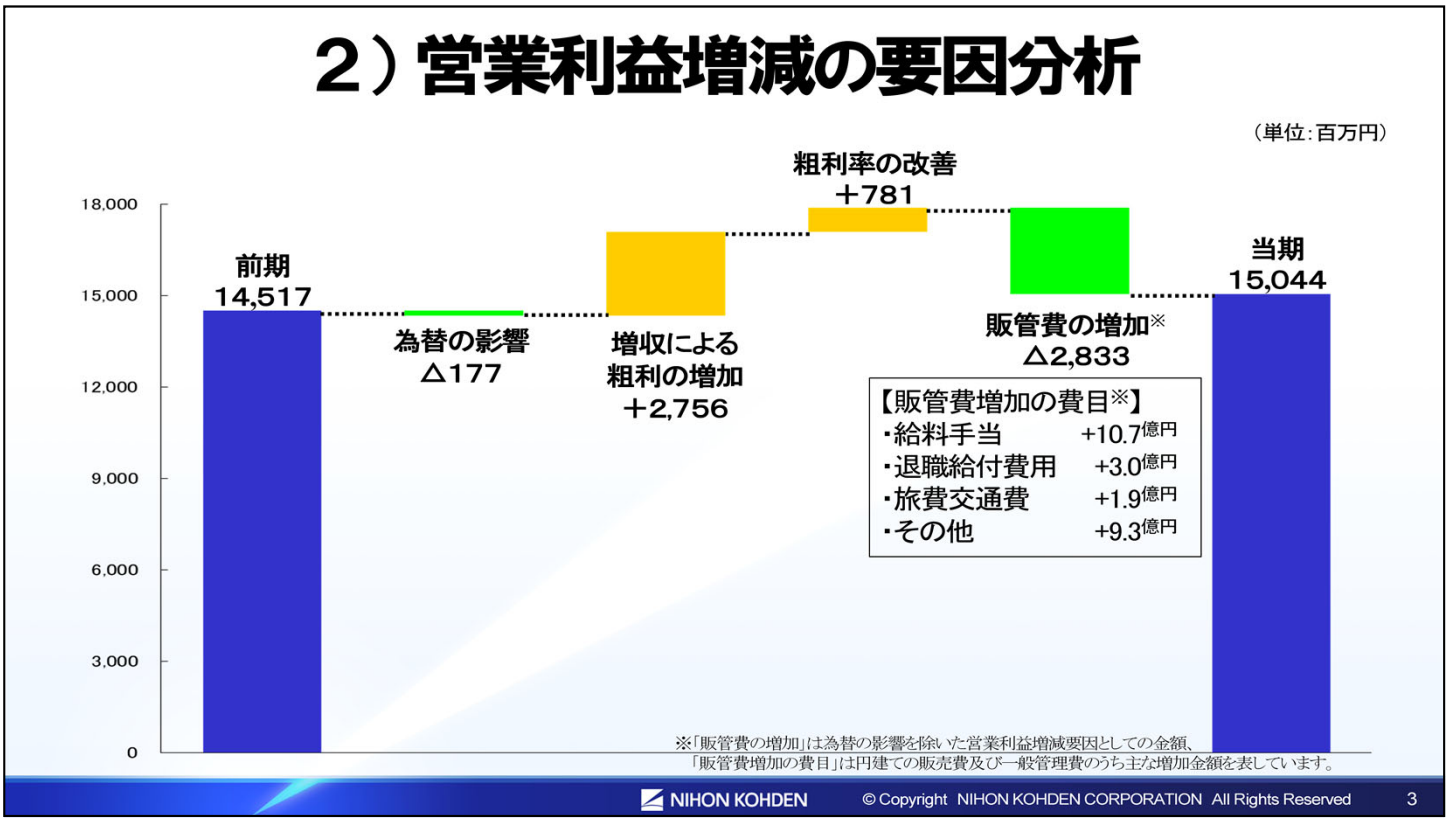
2018/3は米国税制改正の影響で税金費用が増加

※日本光電アメリカ㈱における労務問題に関する仲裁に係る訴訟損失引当金

NIHON KOHDEN　© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

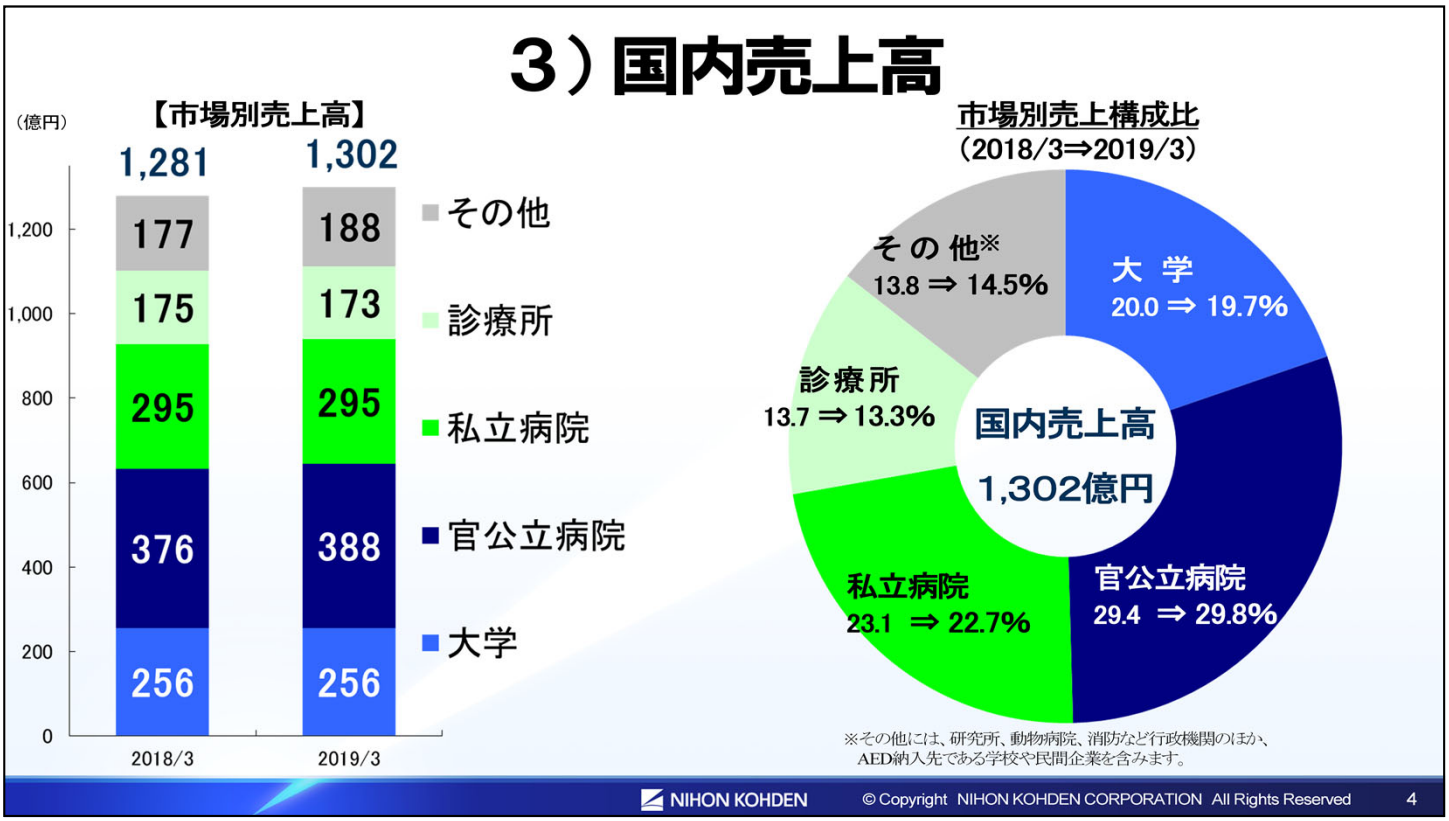
- 売上高は2.6%増の1,787億円となりました。国内売上高は1.6%増の1,302億円、海外売上高は、5.4%増の485億円、現地通貨ベースでは6%の増加となりました。
- 期初予想に対しては、国内、海外ともに未達となり、全体で12億円下回りました。
- 粗利率は、全社的に改善に取り組み、0.6%ポイント増の48.1%となりました。
- 営業利益は、増収効果や粗利率の改善に加え、販管費が想定を下回ったことから、期初予想どおり、3.6%増の150億円となりました。
- 純利益については、特別損失を計上した一方で、税金費用が減少し、22.3%増の111億円となりました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 営業利益が、前期の145億円から150億円に増加した要因について、ご説明します。
- 為替の影響につきましては、1億円のマイナス要因となりました。
- 増収による粗利の増加は、27億円となりました。
- 粗利率につきましては、国内外で自社品の販売に注力するとともに、富岡、上海でコストダウンに取り組み、7億円のプラス要因となりました。
- 販管費につきましては、人員の増強などにより、28億円のマイナス要因となりました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

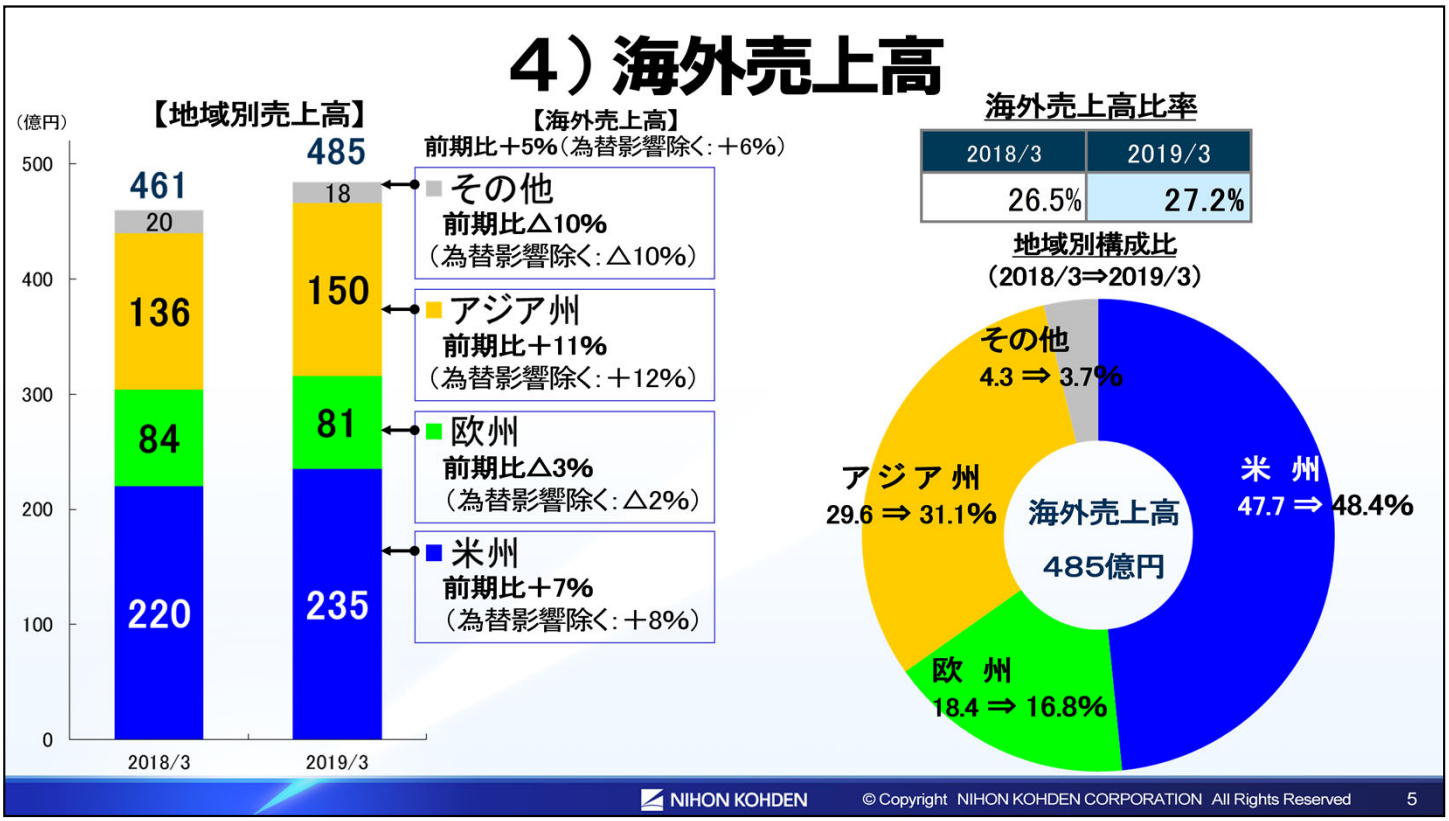


- 国内売上高は21億円増の1,302億円となりました。

- 市場別では、その他市場に含まれるAEDの販売が好調だったほか、官公立病院市場もITシステムの更新商談が堅調に推移しました。大学、私立病院市場は前期並みを維持しましたが、診療所市場では自社品販売に注力し、現地仕入品を抑制したことから、前期を下回りました。

- 現地仕入品の抑制により、期初予想には届きませんでしたが、市場別の取り組みを強化するとともに、消耗品・保守サービス事業の拡大に注力した結果、増収となりました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 海外売上高は、24億円増の485億円となりました。

- 米州は、15億円増の235億円、現地通貨ベースでは、8%増加しました。米国は、生体情報モニタ、脳神経系群を中心に好調に推移しました。中南米は、ブラジル、メキシコが好調だったものの、チリ、コロンビアが低調だったことから、減収となりました。

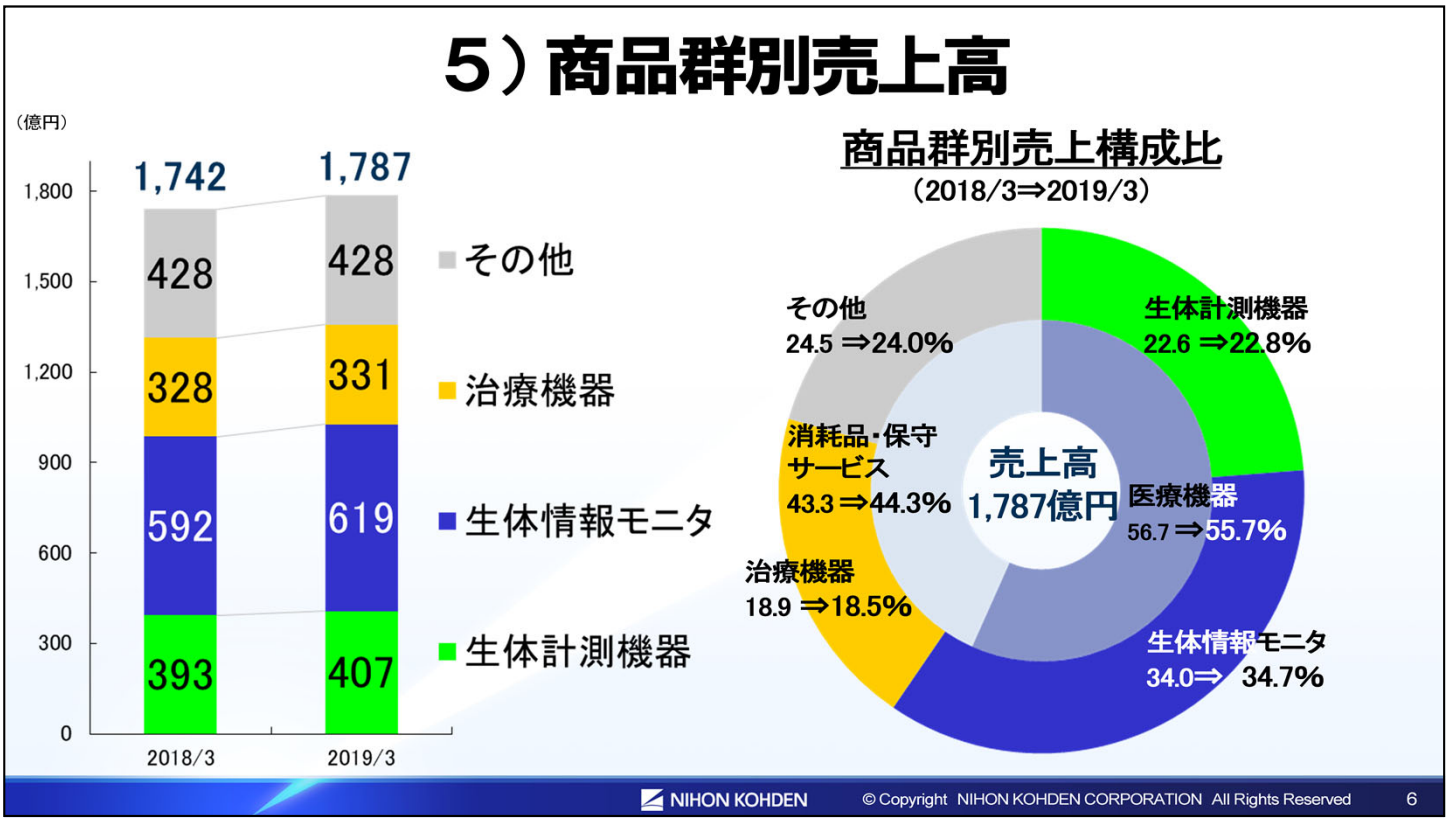
- 欧州は、3億円減の81億円、現地通貨ベースでは、2%減少しました。フランス、イギリスは好調だったものの、政府予算が停滞したロシア、トルコが低調に推移しました。

- アジア州は、14億円増の150億円、現地通貨ベースでは12%増加しました。中国、タイが好調に推移したほか、インドの売上も回復しました。また、カタールにおける大口商談の受注も寄与しました。

- その他地域では、エチオピアなどアフリカが低調に推移しました。

- 欧州、アフリカが前期を下回ったことから、期初予想には届きませんでしたが、海外販売も総じて好調に推移しました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 商品群別の売上高の状況は、ご覧のとおりです。全ての商品群で売上を伸ばすことが出来ました。

- 国内外での消耗品・保守サービス事業の強化を受け、消耗品・保守サービスの割合は、44.3%へ上昇しました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

5.1）生体計測機器

（単位：百万円）

	前期 2018/3	当期 2019/3	増減率（%）
脳神経系群	7,292	7,648	4.9
心電計群	6,982	6,766	△ 3.1
心臓カテーテル検査装置群	13,172	14,468	9.8
その他（診断情報システム等）※	11,874	11,888	0.1
生体計測機器合計	39,323	40,773	3.7
うち国内売上高	31,445	32,112	2.1
うち海外売上高	7,878	8,661	9.9

※その他には、診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。

心臓カテーテル検査装置群、診断情報システムは好調。脳神経系群、心電計群は減収

脳神経系群は好調に推移、米国がけん引。心電計群は前期を下回る

脳波計 EEG-1290 | 筋電図・誘発電位検査装置 MEB-9400 | 心電計 ECG-2400 | ホルター心電計 RAC-5000 | 臨床用ポリグラフ RMC-5000 | 医療介護ネットワークシステム LAV-1000

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 「生体計測機器」は、全体で、3.7%増の407億円となりました。
- 国内は、2.1%増の321億円となりました。脳神経系群、心電計群は前期を下回ったものの、心臓カテーテル検査装置群や、更新需要により診断情報システムが好調に推移しました。
- 海外は、9.9%増の86億円となりました。心電計群は前期を下回ったものの、脳神経系群は、営業体制の整備を進めた米国で特に好調に推移しました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

5.2）生体情報モニタ

（単位：百万円）

	前期 2018/3	当期 2019/3	増減率（%）
生体情報モニタ合計	59,229	61,978	4.6
うち国内売上高	36,857	37,641	2.1
うち海外売上高	22,372	24,337	8.8

臨床情報システムの更新商談が増加。センサ類などの消耗品も堅調

米州、アジア州での売上が大幅に伸長。欧州は微減、その他地域は低調

※日本光電独自の血圧測定アルゴリズム。血圧カフを締め付けすぎず、短時間で測定。

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 「生体情報モニタ」は、全体で4.6%増の619億円となりました。
- 国内は、2.1%増の376億円となりました。臨床情報システムの更新商談が増加し、センサ類などの消耗品も堅調に推移しました。
- 海外は、8.8%増の243億円となりました。米国では、全米トップクラスの病院から受注を獲得し、売上が大きく伸びたほか、アジア州では、中国やインド、カタールが売上をけん引しました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

5.3）治療機器

（単位：百万円）

	前期 2018/3	当期 2019/3	増減率（%）
医科向け除細動器	6,285	6,163	△ 1.9
AED	14,867	15,388	3.5
ペースメーカ・ICD	3,189	3,019	△ 5.3
人工呼吸器	2,432	2,660	9.4
その他	6,117	5,916	△ 3.3
治療機器合計	32,892	33,149	0.8
うち国内売上高	22,288	22,299	0.0
うち海外売上高	10,603	10,849	2.3
（参考）AED販売台数	92,000台	101,900台	10.8
うち国内販売台数	45,200台	49,700台	10.0

【国内】前期並み
【海外】前期好調の反動減

【国内】増設・更新需要により好調
【海外】欧州、アジア州で増収

初めて10万台を突破

除細動器
TEC-5600シリーズ

AED
AED-3150

心臓ペースメーカ
Zenex MRI

人工呼吸器
HAMILTON-C1

CPRアシスト
CPR-1100

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved 9

- 「治療機器」は、全体で0.8%増の331億円となりました。国内は、前期並みの222億円、海外は、2.3%増の108億円となりました。

- 医科向け除細動器は、国内は前期並みでしたが、海外は前期に好調だった反動があり、1.9%減の61億円となりました。

- AEDは販売台数が全体で10万1,900台となり、初めて10万台を突破し、売上は3.5%増の153億円となりました。国内では、増設や更新需要により好調に推移しました。海外では、日本光電製のAEDが、欧州、アジア州で増収となりました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

5.4）その他

（単位：百万円）

	前期 2018/3	当期 2019/3	増減率（%）	（参考）比較可能ベース
検体検査装置	11,224	**9,666**	△ 13.9	6.2
画像診断装置、研究用機器他※	31,589	**33,231**	5.1	△ 1.9
その他合計	42,804	**42,898**	0.2	
うち国内売上高	37,552	**38,169**	1.6	
うち海外売上高	5,251	**4,728**	△ 10.0	

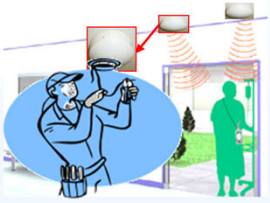
【国内】区分変更の影響を除くと好調。新製品が寄与
【海外】中南米、アジア州で増収

現地仕入品が前期を下回る

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。
2019/3期から従来「検体検査装置」に区分していた他社製検体検査装置と画像診断装置のセット商談を「画像診断装置、研究用機器他」に区分しています。

全自動血球計数器
MEK-9100

全自動血球計数・免疫反応測定装置
MEK-1303



設置工事・保守サービス

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 「その他商品群」におきましては、全体で0.2%増の428億円となりました。
- 国内は、1.6%増の381億円となりました。新製品の血球計数器が寄与したほか、医療機器の設置工事・保守サービスが好調に推移しました。
- 海外は、10%減の47億円となりました。血球計数器は、中南米、アジア州で好調に推移したものの、現地仕入品が前期を下回りました。
- これまで「検体検査装置」に区分をしていた、国内における他社製の検体検査装置と画像診断装置のセット商談を当期から「画像診断装置、研究用機器 他」の区分に変更しています。この影響を除く検体検査装置は、増収となっています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

[参考]地域別商品群別売上高・対前期増減率

（単位：億円、単位未満切捨て）

	合計	国内	海外				
			計	米州	欧州	アジア州	その他地域
生体計測機器	407（+4%）	321（+2%）	86（+10%）	37（+29%）	12（△19%）	34（+7%）	2（+1%）
生体情報モニタ	619（+5%）	376（+2%）	243（+9%）	153（+9%）	31（△1%）	51（+21%）	6（△16%）
治療機器	331（+1%）	222（+0%）	108（+2%）	40（△5%）	29（+7%）	31（+12%）	6（△10%）
その他	428（+0%）	381（+2%）	47（△10%）	3（△52%）	8（△15%）	32（+1%）	2（△3%）
売上高合計	1,787（+3%）	1,302（+2%）	485（+5%）	235（+7%）	81（△3%）	150（+11%）	18（△10%）

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

6）財政状態

（単位：百万円）

	前期末 2018/3	当期末 2019/3	増減額
流動資産	120,687	132,211	11,524
たな卸資産	23,098	28,599	5,500
有形固定資産	20,324	19,945	△ 379
無形固定資産	5,079	4,563	△ 516
投資その他資産	11,818	12,997	1,178
資産合計	157,910	169,717	11,807

	前期末 2018/3	当期末 2019/3	増減額
流動負債	44,601	48,346	3,744
有利子負債	488	406	△ 81
固定負債	3,953	5,282	1,329
純資産	109,355	116,087	6,732
負債・純資産合計	157,910	169,717	11,807

たな卸資産回転月数	3.0ヵ月	3.7ヵ月	
自己資本比率	69.3%	68.4%	

【たな卸資産増加理由】
・製品・商品在庫の増加　+4,810百万円
　→製品：安定供給のための在庫確保、出荷待ち在庫の増加
　→消耗品：BCP対応のための在庫確保
・原材料在庫の増加　+627百万円
　→電子部品等の先行確保

NIHON KOHDEN　© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved　12

- 総資産は118億円増加し、1,697億円となっています。
- たな卸資産につきましては、安定供給のための製品在庫や電子部品などの原材料を先行確保したため、増加しました。回転期間は3.7ヵ月となりました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7）キャッシュフロー

	前期 2018/3	当期 2019/3	増減額
Ⅰ営業CF	10,843	9,819	△ 1,024
Ⅱ投資CF	△ 3,346	△ 3,258	88
FCF	7,497	6,561	△ 935
Ⅲ財務CF	△ 4,628	△ 3,074	1,553
換算差額	△ 144	△ 74	69
増減額	2,724	3,412	687
期末残高	31,285	34,697	3,412
ROE	8.6%	9.9%	

（単位：百万円）

	2018/3	2019/3	増減
税金等調整前当期純利益	13,954	15,519	+1,565
棚卸資産の増減額（増加：△）	△496	△5,602	△5,105
有形固定資産の取得による支出	△2,901	△2,794	+106

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 期末残高は34億円増加し、346億円となりました。
- ROEは9.9%となりました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8）設備投資と研究開発費

（単位：百万円）

	前期 2018/3	当期 2019/3 期初計画	当期 2019/3 前回計画※	当期 2019/3 実績	増減額（年度比較）	次期計画 2020/3
設備投資額	3,430	4,000	3,900	**3,049**	**△ 381**	4,700
減価償却費	3,338	3,900	3,800	**3,542**	**203**	3,900
研究開発費	7,226	8,500	8,000	**7,243**	**17**	7,600

※2018/11/2　第２四半期決算発表時の予想数値

●設備投資の実績

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備

●2020/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、ドバイ試薬工場（2億円）、東日本物流センタ（4億円）

→企画賃貸型のため、投資は移動ラックなど物流設備のみ

東日本物流センタ

建物竣工：2019年6月予定
移転：8月以降順次、年内完了予定

機器と消耗品を集約

機器と消耗品の同梱出荷で物流コスト削減

NIHON KOHDEN　© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 設備投資は30億円、減価償却費は35億円となりました。計画との差異につきましては、改修工事の期ずれや販促用製品の抑制などによるものです。

- 研究開発費は、計画を大きく下回り、72億円となりました。新製品投入後の維持・改良の工数に振り分けたことが影響しています。

- 次期につきましては、設備投資は17億円増の47億円、減価償却費は4億円増の39億円、研究開発費は4億円増の76億円を見込んでいます。ドバイに試薬工場の設立を進めるほか、年内に東日本物流センタを稼働する予定です。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

2 次期業績見通し

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

1）経営環境

国　内

2025年医療・介護の将来像

・医療の機能分化・強化と連携
・地域包括ケアシステムの推進

・2018年度末、各都道府県は地域医療構想調整会議で個別の病院名や転換病床数等の具体的対応方針を策定
・今後、公立・公的病院の代替・再編の可能性を議論
・地域医療介護総合確保基金　2019年度 1,034億円（医療）

2019年10月　消費税率引上げに伴う診療報酬改定
診療報酬本体改定率＋0.41%

・病院は、地域医療構想に沿って病床再編を具体化
・消費税率引上げに伴う駆け込み需要・反動減の影響を注視

海　外

欧米諸国

・医療の質と効率性の向上
・米国IDN※1の拡大
・欧州GPO※2など集中購買の広がり

新 興 国

・一部地域で政治・政策動向に不透明感、現地通貨下落の影響
・経済発展に伴う医療インフラ整備

医療機器の需要は底堅く推移

※1 IDN: Integrated Delivery Network 総合医療ネットワーク　※2 GPO: Group Purchasing Organization グループ購買組織

NIHON KOHDEN　© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 国内では、「2025年の医療と介護の将来像」に向けて、医療制度改革が進められており、病床再編が加速すると考えています。また、消費税率引上げに伴う駆け込み需要と反動減の影響を注視しています。

- 海外については、米国市場ではIDN拡大の動きが続いており、欧州市場ではGPO等による集中購買の広がりが見られます。新興国市場では、一部地域で政治動向に不透明感はありますが、経済発展に伴う医療インフラの整備が進んでおり、海外全体の医療機器の需要は、総じて底堅く推移すると考えています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

2）次期業績見通し

（単位：百万円）

	当期実績 2019/3	次期予想 2020/3	増減率（%）
売上高	178,799	186,000	4.0
国内売上高	130,223	133,000	2.1
海外売上高	48,575	53,000	9.1
売上総利益（売上総利益率）	85,987 48.1%	90,200 48.5%	4.9
営業利益（営業利益率）	15,044 8.4%	16,000 8.6%	6.4
経常利益	15,867	16,000	0.8
親会社株主に帰属する当期純利益	11,191	11,000	△ 1.7
海外売上高比率	27.2%	28.5%	

為替影響除く：+12%

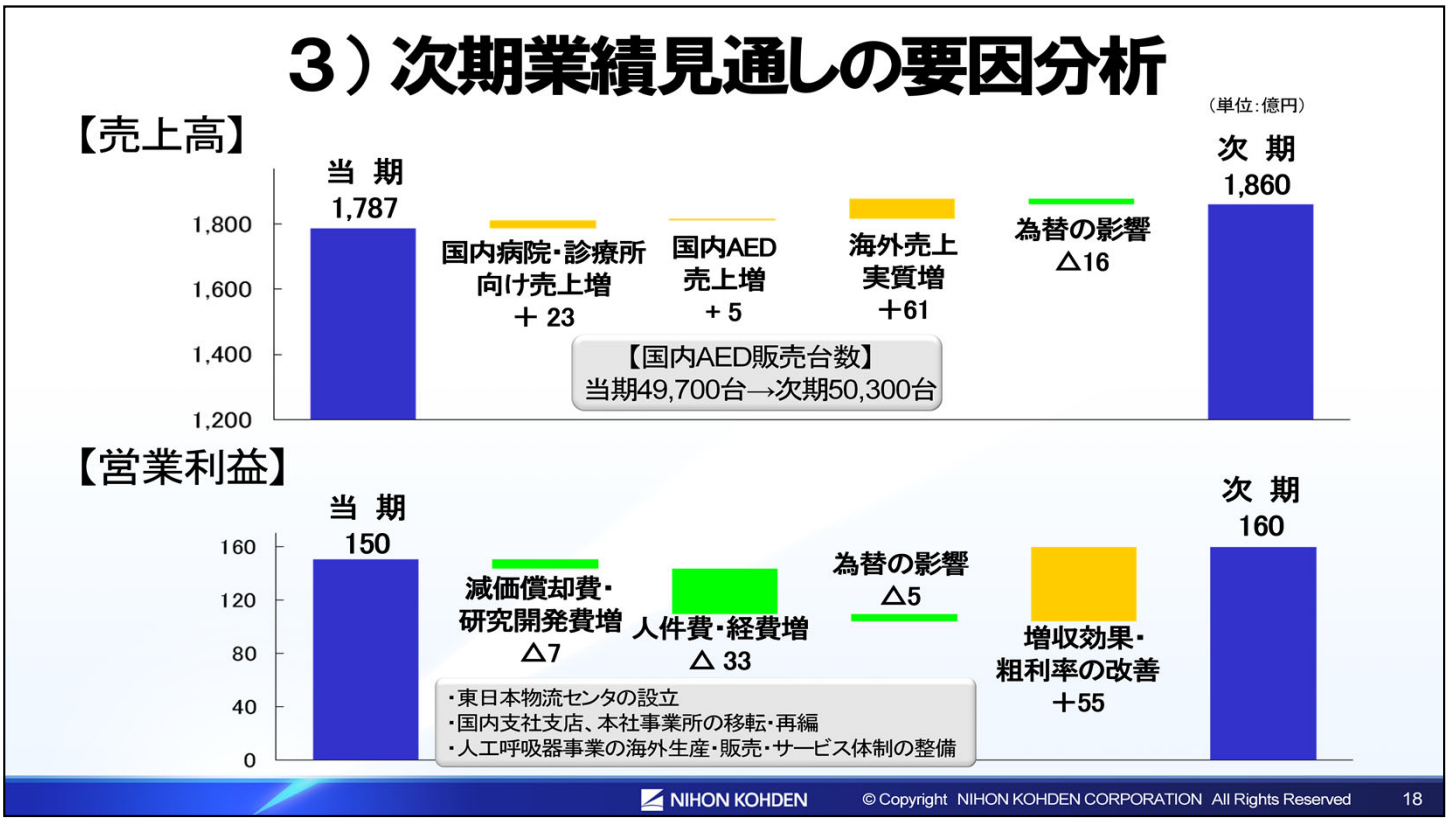
【地域別海外売上高】

	当期実績 2019/3	次期予想 2020/3	増減率（%）
米州	23,508	25,500	8.5
欧州	8,167	8,900	9.0
アジア州	15,096	16,000	6.0
その他	1,802	2,600	44.2
海外計	48,575	53,000	9.1

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved 17

- 以上の市場環境を踏まえ、次期の業績見通しにつきましては、連結売上高は4%増の1,860億円、国内売上高は2.1%増の1,330億円、海外売上高は9.1%増の530億円、現地通貨ベースでは12%の増加を見込んでいます。
- 好調な米国、アジア州に加え、中南米、欧州、アフリカの回復を目指します。
- 粗利率は、新たな自社製品の投入などにより、48.5%への改善を見込んでいます。
- 営業利益は、6.4%増の160億円を見込んでいます。経常利益、純利益につきましては、ご覧のとおりです。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 国内売上高は、病院・診療所向けに23億円、AEDは5億円増加する見込みです。AEDの販売台数は、50,300台を見込んでいます。

- 海外売上高は、61億円の実質増、為替は16億円のマイナス影響を見込んでいます。

- 営業利益につきましては、減価償却費・研究開発費が7億円増加するほか、東日本物流センタの設立や、国内事業所の移転・再編、人工呼吸器事業の立ち上げに伴う費用などがあり、人件費・経費が33億円増加する見込みです。為替は5億円のマイナス影響、増収と粗利率改善によるプラス効果は55億円と見込んでいます。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

[参考]商品群別売上高見通し/為替の影響

（単位：百万円）

	当期実績 2019/3	次期予想 2020/3	構成比（%）	増減率（%）
生体計測機器	40,773	41,700	22.4	2.3
生体情報モニタ	61,978	66,150	35.6	6.7
治療機器	33,149	34,250	18.4	3.3
その他	42,898	43,900	23.6	2.3
売上高合計	178,799	186,000	100.0	4.0
（ご参考）				
消耗品・保守サービス	79,226	83,000	44.6	4.8

平均レート

	当期実績 2019/3	次期予想 2020/3
米ドル	110.8円	108円
ユーロ	128.5円	125円

為替感応度の概算値（年間）

	売上高	営業利益
米ドル	3.2億円	1.1億円
ユーロ	0.5億円	0.2億円

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 商品群別の売上高見通しについては、全ての商品群で増収を目指すとともに、消耗品・保守サービス事業の取り組みを、引き続き、国内外で強化します。

- 為替につきましては、ドルは108円、ユーロは125円と想定しています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

3

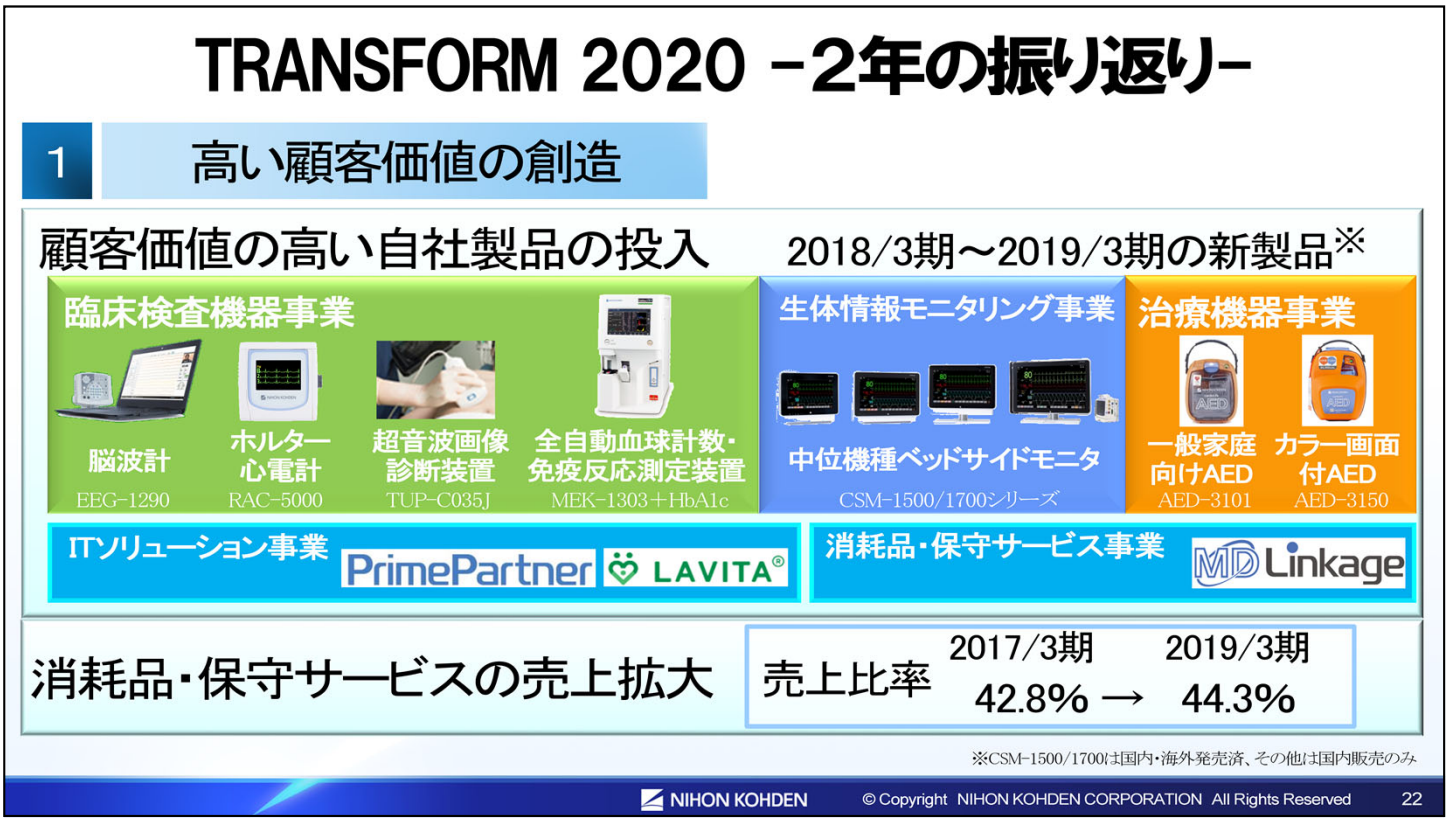
中期経営計画の進捗状況
TRANSFORM 2020

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 3ヵ年中期経営計画「TRANSFORM 2020」では、2つの基本方針のもと、6つの重要課題に取り組み、高収益体質への変革を目指しています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 2年間の振り返りですが、「高い顧客価値の創造」に向けては、ご覧のような顧客価値の高い自社製品を数多く投入しました。

- 次世代を見据えた新たなビジネスモデルとして、当社初となるクラウドサーバを活用した月額制のITソリューションや、IoTを活用した付加価値サービスである医療機器リモート監視システム「MDリンケージ」の提供を開始しました。

- 国内外で消耗品・保守サービス事業を強化した結果、売上比率は44.3%へ上昇しました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

TRANSFORM 2020 －2年の振り返り－

2 組織的な生産性の向上

開発・生産

- 開発段階でのコストダウン
  - 部品の共通化等

- 富岡生産センタでの生産効率改善

一人当たり生産高	2015/4富岡生産センタ稼働以降 年率5%強の向上

グループ全体

- ERPのグローバル展開
  - アメリカ、欧州、中国に続き、中東、韓国に導入

- 本社−国内支社支店間の業務のスリム化

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 「組織的な生産性の向上」に向けては、総合技術開発センタに技術部門を集約したことにより、部品の共通化や設計資産の共有などを進め、開発段階からコストダウンに取り組んでいます。

- 富岡生産センタでは、生産効率の改善に取り組み、一人当たりの生産高は、稼働以降、年率5%で向上しています。

- グループ全体では、米国、欧州、中国に続き、中東、韓国にERPを導入し、グローバルなサプライチェーンの構築を進めています。

- ICTを活用した業務プロセス改革に取り組み、本社・支社支店業務のシェアードサービス化が進展しています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

TRANSFORM 2020 –最終年度予想–

（億円）	2020/3 経営目標値	3年間の平均成長率	2020/3 予想	3年間の平均成長率
売上高	1,900	4.5%	1,860	3.8%
国内売上高	1,350	2.7%	1,330	2.2%
海外売上高	550	9.8%	530	8.5%
消耗品・保守サービス売上高比率	45.0%		44.6%	
営業利益（営業利益率）	200（10.5%）	13.8%	160（8.6%）	5.6%
ROE	12.0%		—	
	1米ドル110円・1ユーロ115円		1米ドル108円・1ユーロ125円	

【目標値との差異】

国内売上高

・中小病院、診療所市場での成長に課題
・契約満了に伴う迷走神経刺激装置の取扱終了、研究用機器の販売中止

海外売上高

	2020/3 経営目標値	2020/3 予想
米州	273	255
欧州	82	89
アジア州	165	160
その他	30	26

新製品の投入遅れ等により、米国、新興国市場での高成長維持・確保に課題

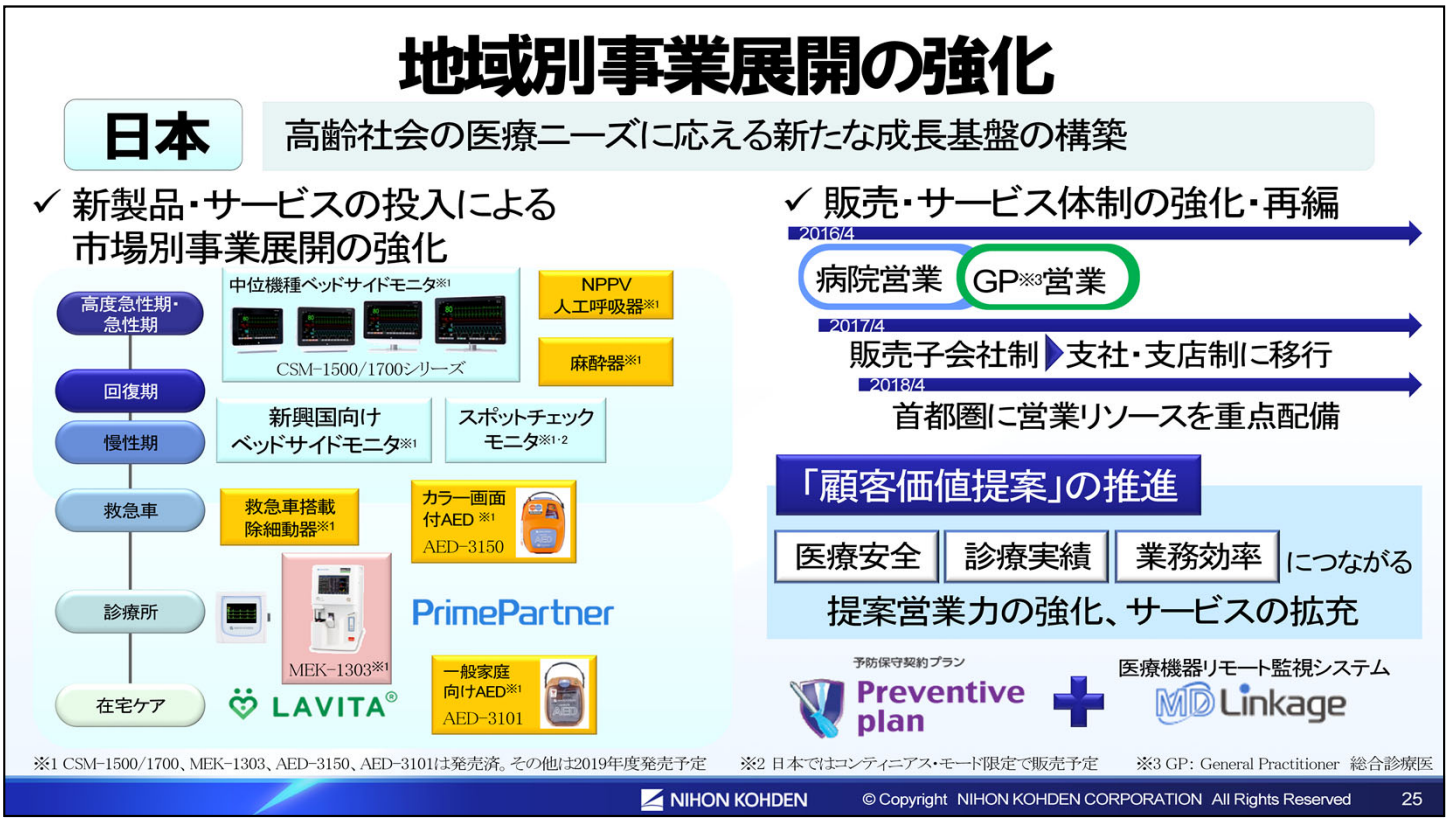
営業利益率

収益体質改善の取り組みは一定の成果を上げつつも、新製品の投入遅れ、東日本物流センタ等の投資が影響

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved 24

- 中期経営計画の経営目標値と最終年度予想の差異について、ご説明します。
- 売上高は国内外ともに堅調に推移しているものの、平均成長率は目標の4.5%には届かず、3.8%に留まる見通しです。
- 国内では、急性期病院市場における更新需要を着実に捉えており、首都圏に営業リソースを重点配備した効果も現れているものの、医療需要が低下傾向にある地方圏の中小病院、診療所市場での成長に課題が残っています。また、当初想定していなかった一部商品の販売中止も影響しています。
- 海外は、新製品の投入が遅れたことに加え、グローバル展開を支えるサプライチェーンなど、体制面の整備に時間を要しており、特に米国および新興国市場における高成長率の維持が課題となっています。
- 消耗品・保守サービス比率は、目標の45%に近い44.6%を想定しており良化傾向にあります。
- 営業利益率については、10.5%の目標に対して8.6%となる見通しであり、目標から大きく乖離しています。新製品の投入遅れにより収益化の時期が遅れていることに加え、物流体制の再編など2020年以降の成長基盤の整備に先行投資を予定していることが影響しています。ただし、商品構成の良化や原価低減による粗利率の向上など収益体質の改善は着実に進んでおり、引き続き取り組みを強化します。

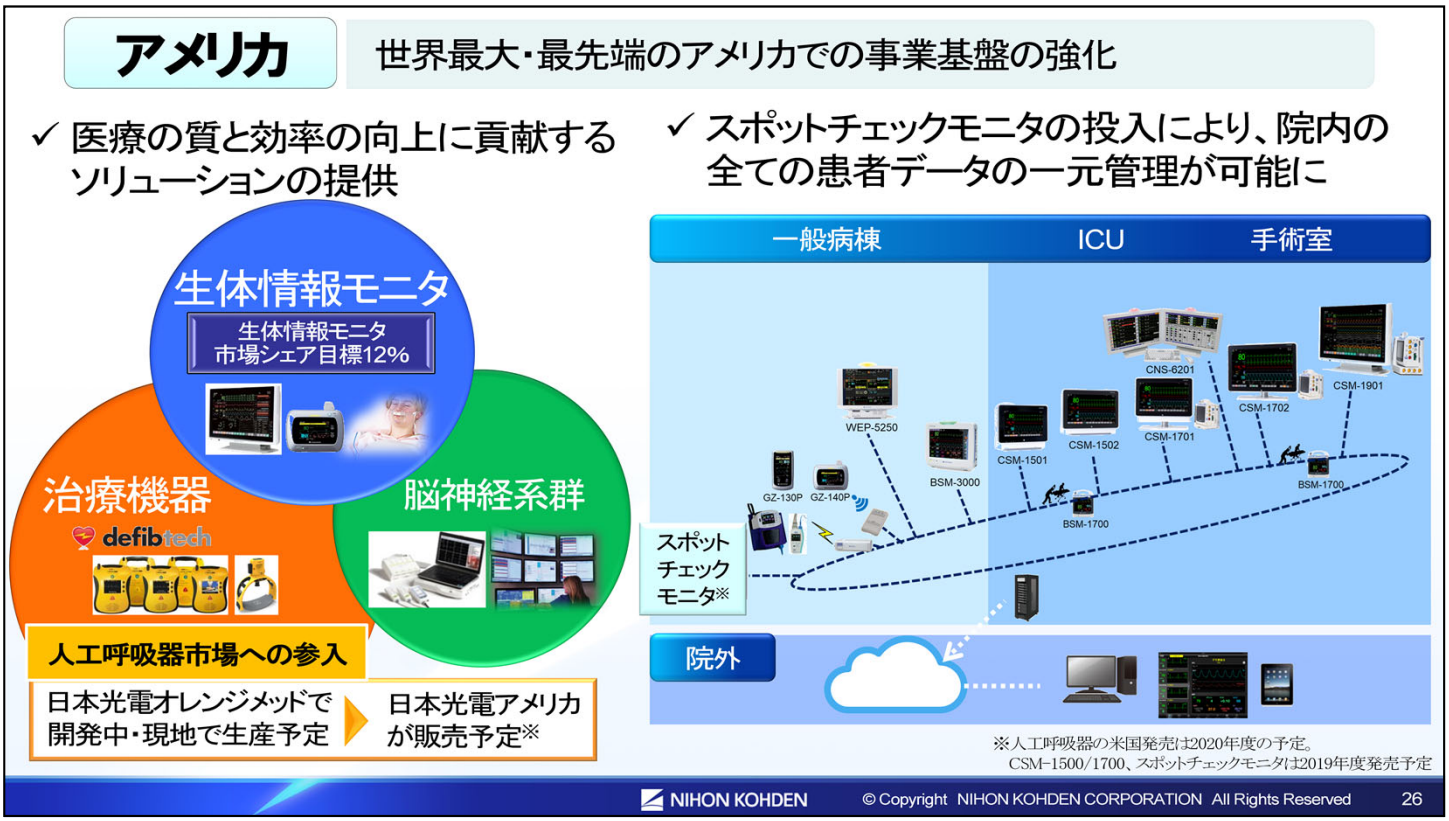
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 「地域別事業展開の強化」については、国内では、高齢社会の医療ニーズに対応するために、急性期から、回復期、慢性期、そして在宅医療までケアサイクル全体を包括する商品ラインアップを拡充し、市場別事業展開を強化します。

- 販売・サービス体制の再編だけではなく、「顧客価値提案」を推進しており、「医療安全」「診療実績」「業務効率」を訴求する提案営業力の強化、付加価値サービス商品の拡充に取り組んでいます。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



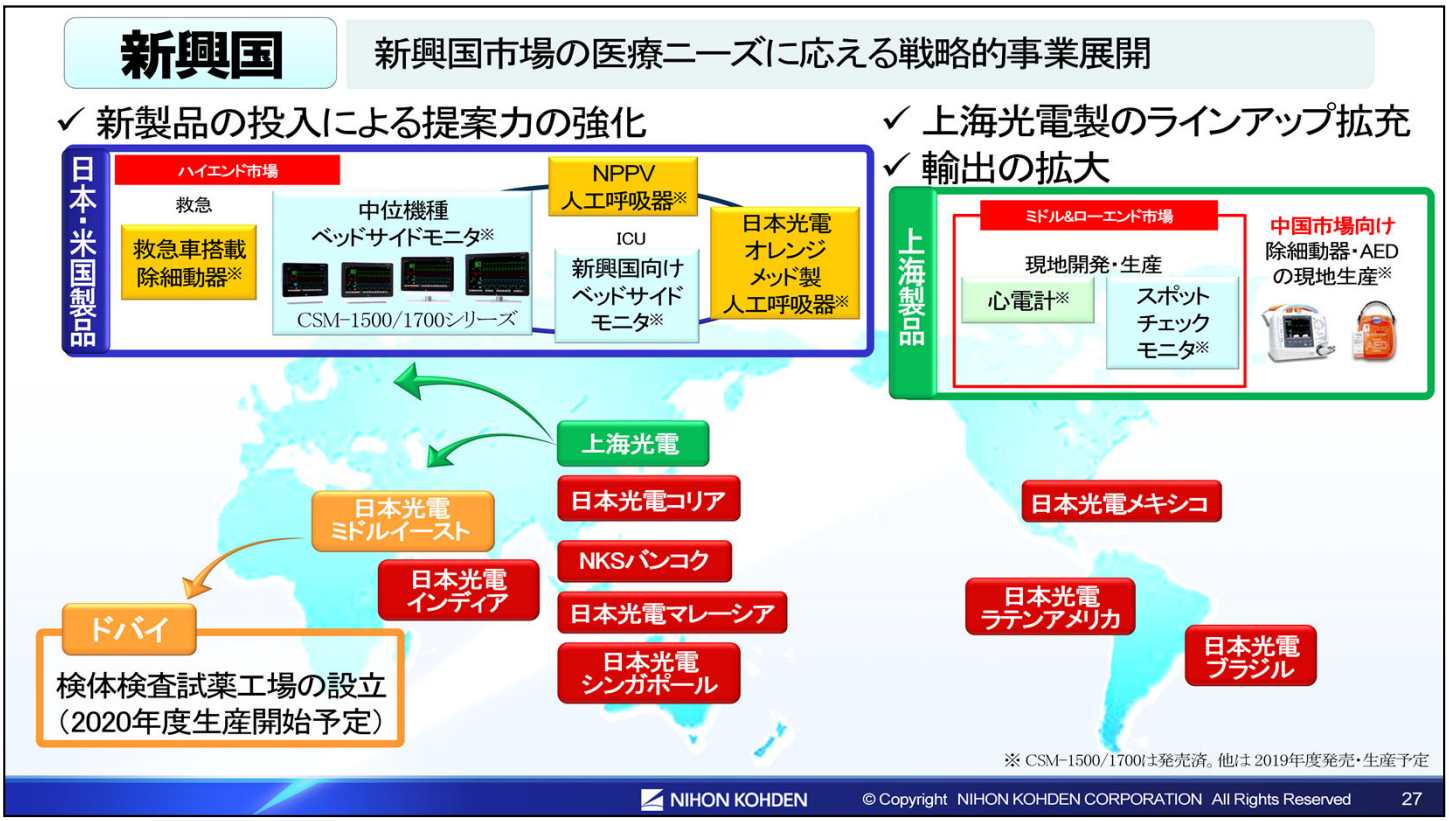
- アメリカ市場においては、販売および現地開発体制の強化が効果を発揮し、生体情報モニタが好調に推移しています。

- 全米トップクラスの病院に導入されるなど、当社のブランド力が向上しており、足元における当社のシェアは9%程度と見ています。

- 今期は、中位機種ベッドサイドモニタに加え、当社初となるスポットチェックモニタを投入する予定であり、院内の全ての患者データを一元管理する包括的なモニタ商談の獲得を目指します。なお、FDA承認プロセスに時間を要しており、発売は下期となる見通しです。

- 治療機器事業では、日本光電オレンジメッドで開発中の人工呼吸器を2020年度に発売する予定であり、ポートフォリオの拡充を図ります。

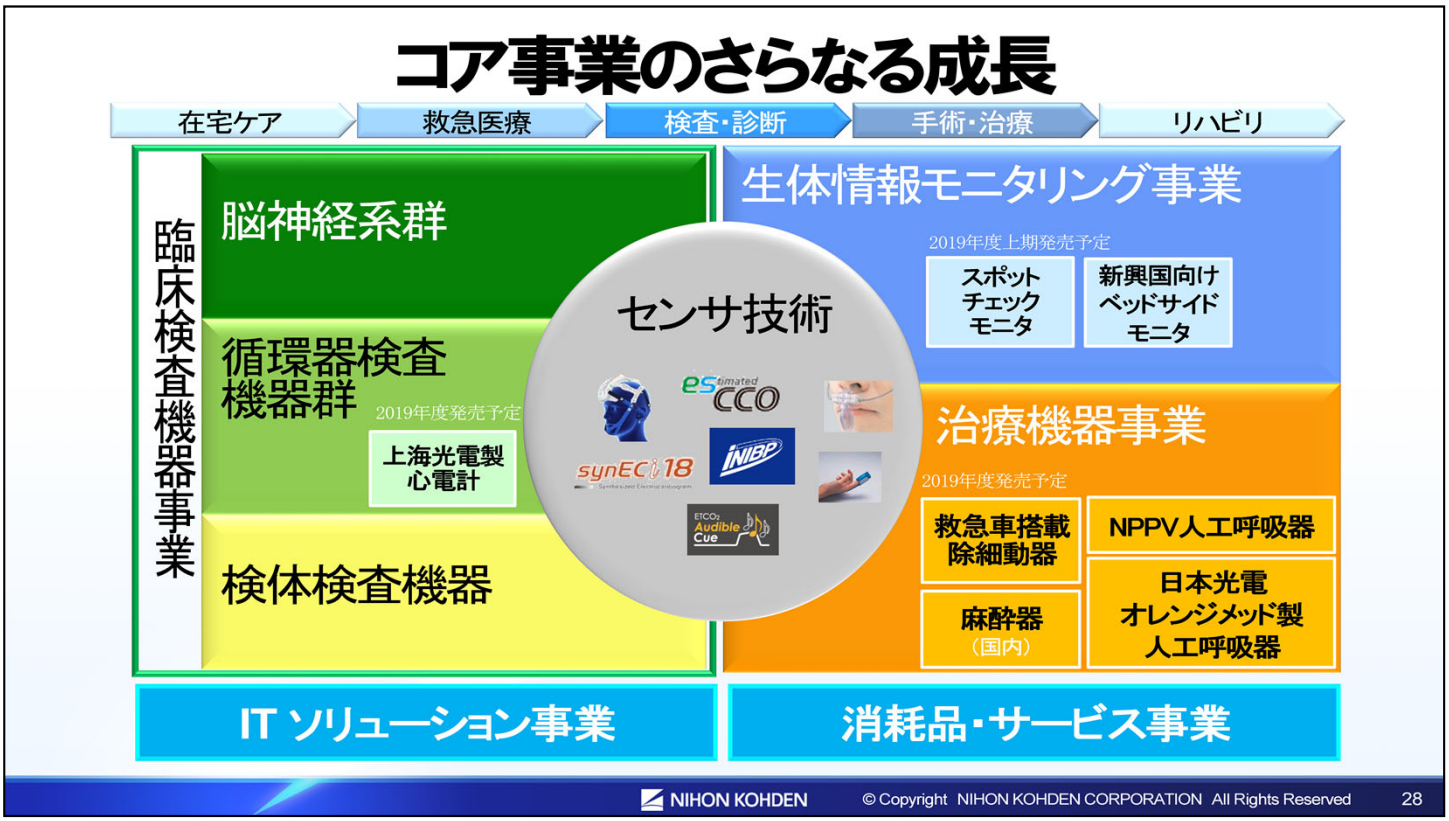
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 新興国市場では、先進国と同様の医療水準が求められるハイエンド市場向けには、付加価値の高い日本・米国の開発・生産品を供給します。今期は、救急車搭載除細動器、新興国向けベッドサイドモニタに加え、2機種の人工呼吸器を新たに投入する予定であり、提案力の強化を図ります。

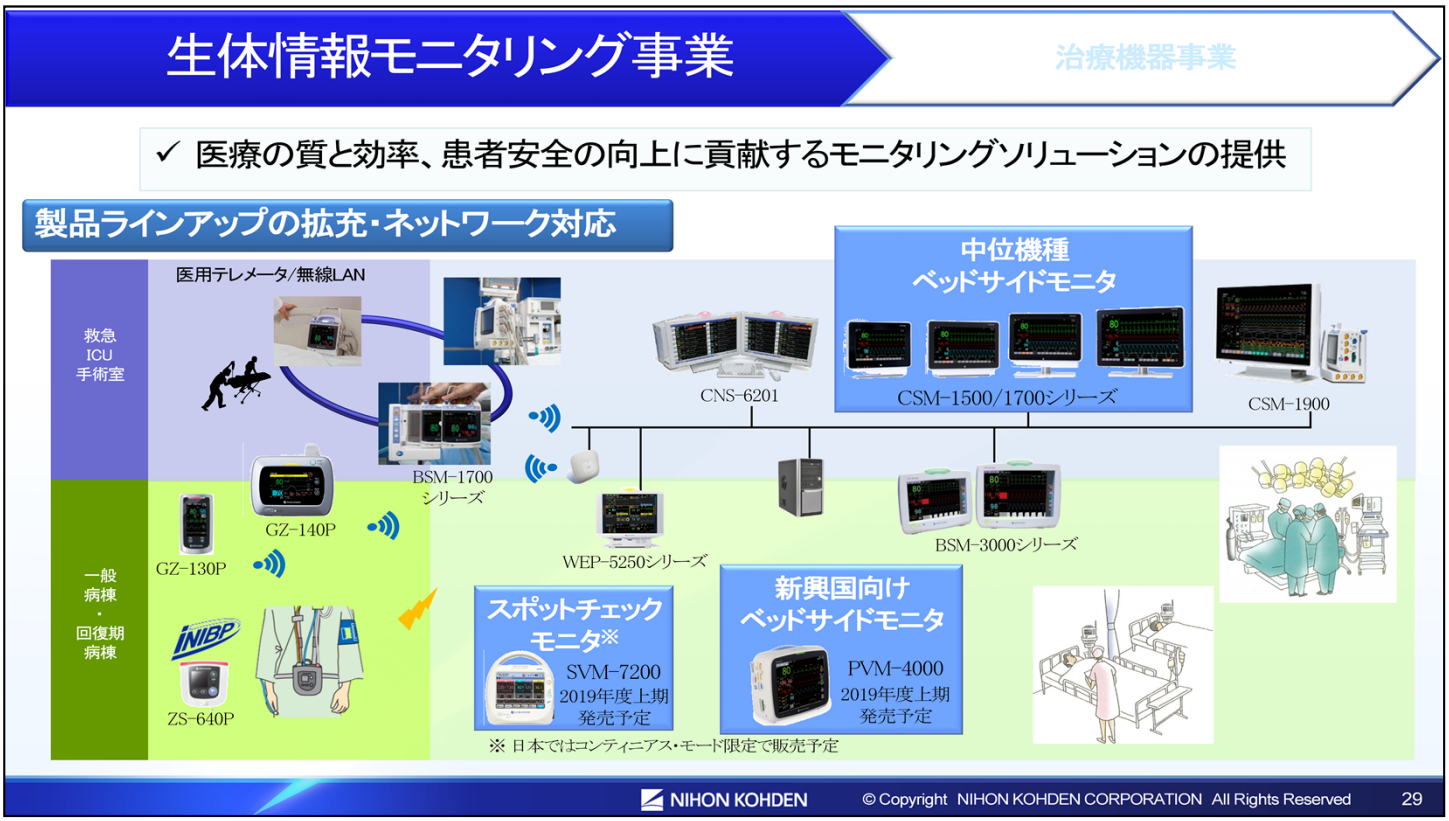
- ミドル・ローエンド市場向けには、コスト競争力の高い上海の開発・生産品を投入します。上海で開発した心電計やスポットチェックモニタを投入するだけでなく、中国市場向けに、新たに除細動器とAEDの現地生産を開始し、好調な中国市場における対策を強化します。また、中近東・アフリカにおいて検体検査装置の稼働数が増加したことから、ドバイに試薬工場を設立し、純正試薬の安定供給を図ります。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 今期発売を予定している新製品はご覧のとおりです。

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 生体情報モニタリング事業では、急性期から回復期まで製品ラインアップを拡充するとともに、大規模ネットワークへの対応を強化することで、競争力の向上を図ります。

- 新製品としては、新興国向けベッドサイドモニタ、上海光電で開発したスポットチェックモニタを投入する予定です。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

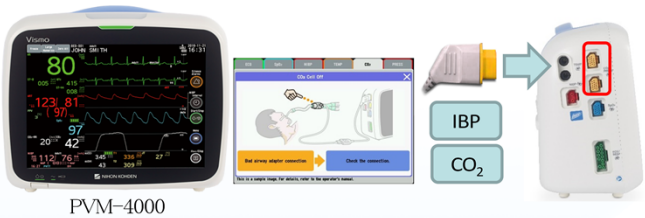
生体情報モニタリング事業

治療機器事業

競争力の高い製品の投入

新興国向け ベッドサイドモニタ

2019年度上期
発売予定



PVM-4000

- **ガイド機能**付きコンパクトモニタ
- **2つのマルチコネクタを搭載**し、観血血圧、CO_2を同時に測定可能
- 一般病棟から手術室・ICUまで、幅広くカバー
- 発売予定の**NPPV人工呼吸器（NKV-330）と接続連携**を予定

※ NPPV（noninvasive positive pressure ventilation）：非侵襲的陽圧換気。
気管内挿管や気管切開を行わない人工呼吸管理

スポットチェックモニタ

2019年度上期
発売予定

- SpO_2、非観血血圧、体温（オプション）が測れる低価格モニタ
- **スポット/コンティニアスのモード切替可能**
- スコアリング機能搭載

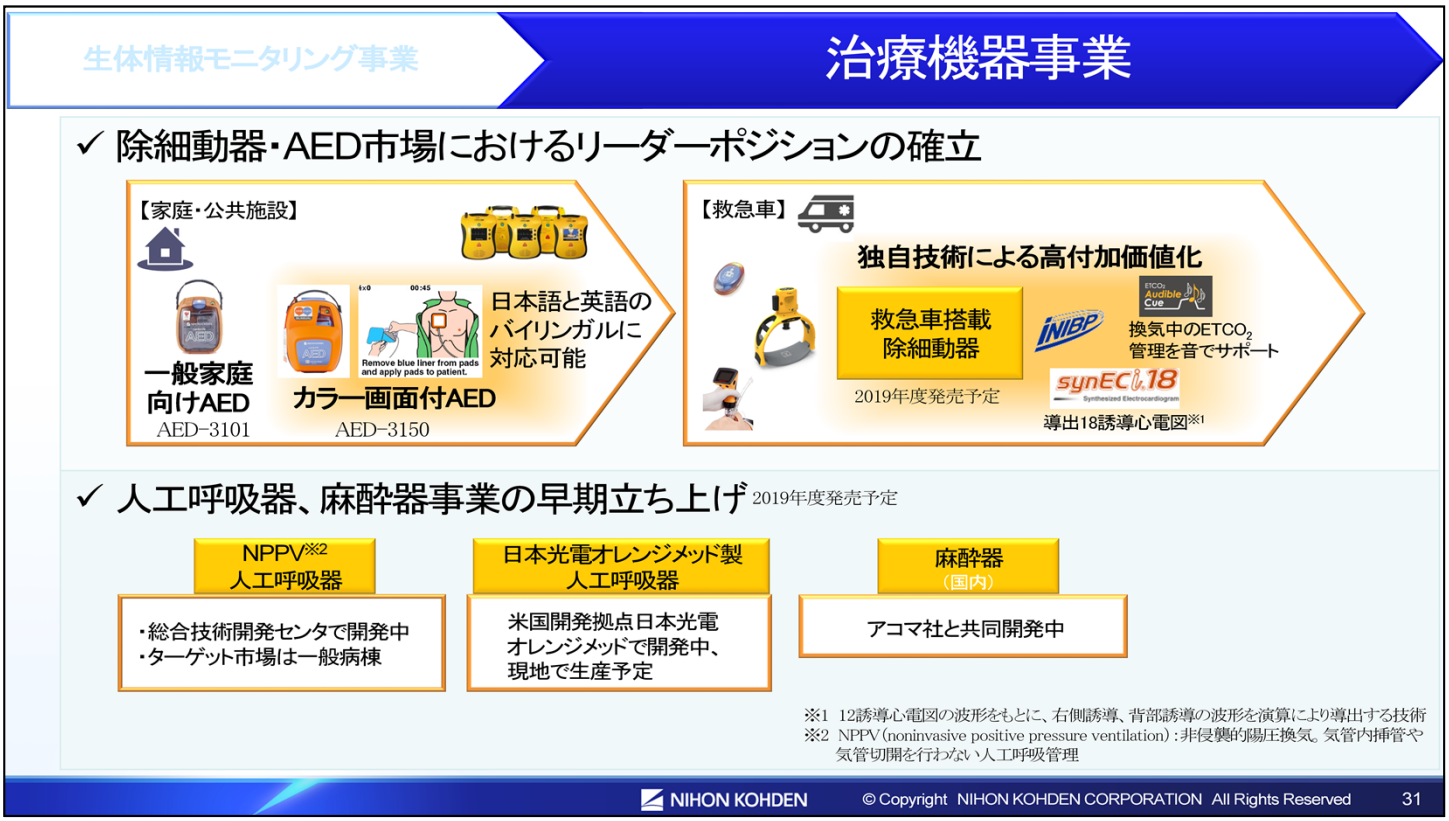
※ 日本ではコンティニアス・モード限定で販売予定

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 新興国向けベッドサイドモニタは、モニタの操作に慣れていない医療従事者向けにガイド機能を搭載しているほか、観血血圧やCO_2も同時に測定できるため、一般病棟から手術室・ICUまで幅広く使用することを想定しています。さらに、自社開発したNPPV人工呼吸器と接続することも予定しており、新たな顧客価値の提案を可能とします。

- スポットチェックモニタは、当社としては新たなラインアップになりますが、特に米国市場への展開が期待されます。米国では、スポットチェックモニタを移動して病棟をラウンドし、患者さん一人ひとりの血圧や体温をスポットで測定し、そのデータを院内システムに送信して一括管理を行う方式が普及しています。当社のスポットチェックモニタは、患者さんの容態が悪化した場合には、コンティニュアスモードに切り替えて、通常のモニタとして使用することも可能であり、汎用性を高めることもできます。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 治療機器事業では、家庭向けAEDに加え、新たにカラー画面付きAEDを発売しました。訪日外国人が増加していることから、日本語と英語で使い方をガイドするバイリンガル機能も搭載しています。

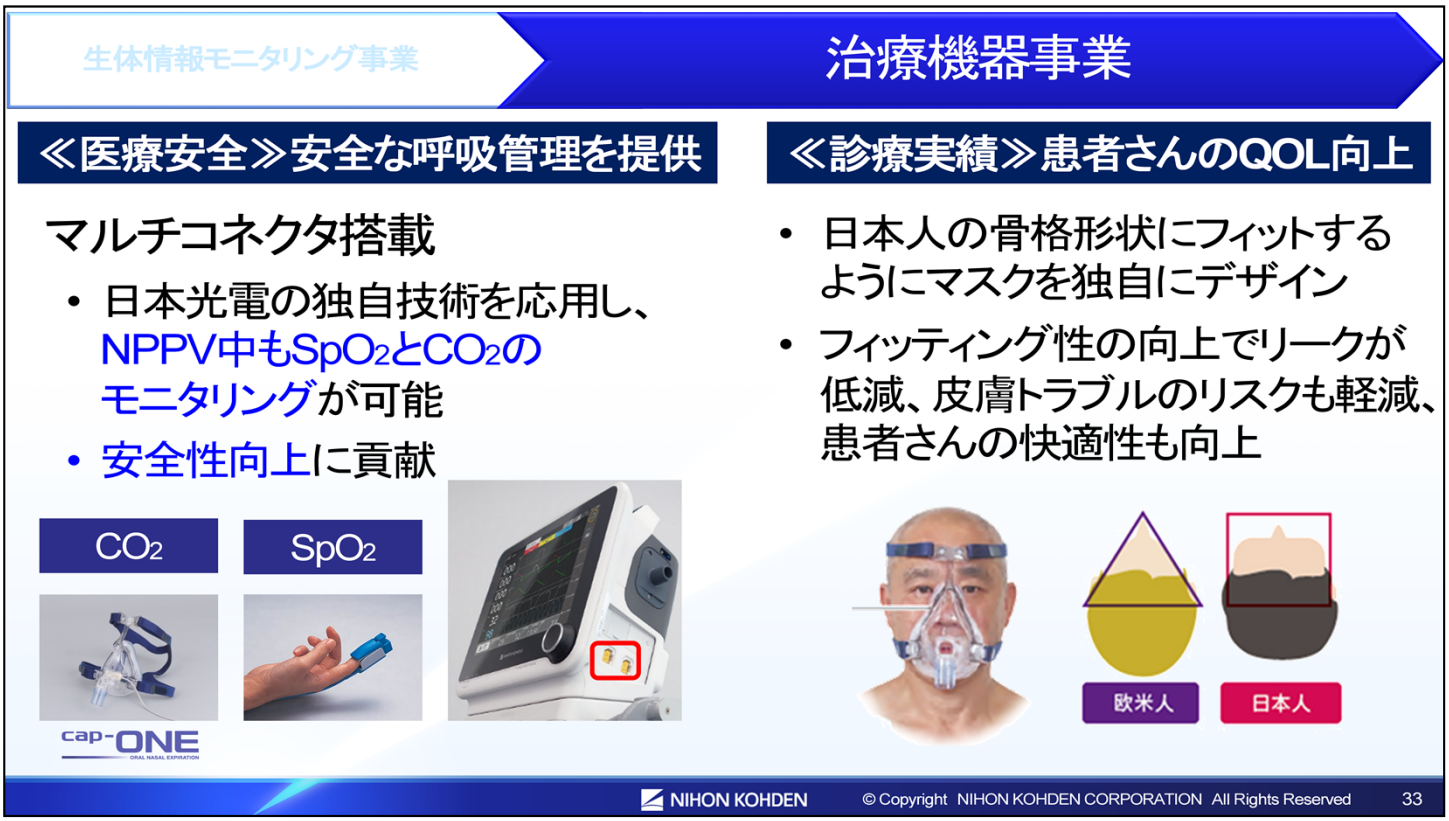
- 救急車搭載除細動器については、iNIBPなど当社独自のコア技術を搭載し、他社にない顧客価値の創造を目指します。

- 新規事業として取り組んできた人工呼吸器、麻酔器事業においては、いよいよ当社初となる自社製人工呼吸器を2機種、および、アコマ社と共同開発している麻酔器を市場に投入する段階に入りました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 最初に発売するのは、日本で開発・生産を行うNPPV人工呼吸器です。
- NPPVは、主に一般病棟の患者さんを対象に、気管挿管をすることなく、マスクを使って非侵襲で換気を行う人工呼吸方式であり、今後の市場拡大が見込まれます。
- 当社のNPPV人工呼吸器は、医療現場の困りごとを解決し、より安全かつ効果的な人工呼吸管理を実現することを目指して、当社の生体情報モニタの基盤技術を活用して開発しました。
- 3月に開催された日本集中治療医学会で展示をしたところ、国産の人工呼吸器ということで、多くのお客様から期待を寄せられました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



- 特に評価の高い機能としては、当社の独自技術を応用し、NPPV中もSpO_2とCO_2のモニタリングを行える機能を実現しました。これは他社にはない機能でありより安全な呼吸管理を提供することが可能になります。

- また、日本人の骨格形状に合うように、独自にマスクの設計・開発を行いました。その結果、マスクからの空気の漏れを低減できるだけでなく、マスクの圧迫による皮膚トラブルのリスクも軽減することができ、患者さんの快適性を向上することが可能となりました。

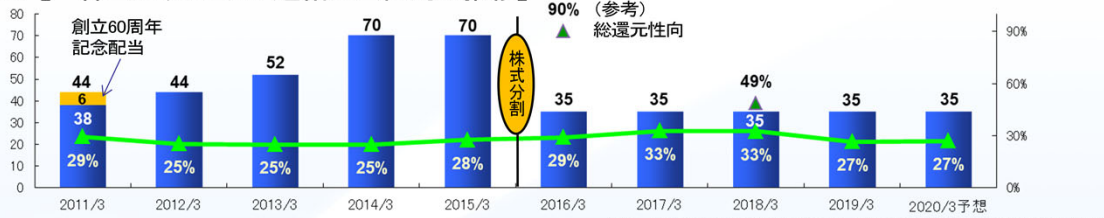
- 上期には国内外で発売を開始する予定であり、今後の市場展開に期待しています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

利益配分の基本方針

成長投資	将来の企業成長に必要な投資を継続 研究開発 / 設備投資 / M&A、提携 / 人財育成
株主還元	✓ 長期にわたって安定的な配当を継続 ✓ 連結配当性向30%以上を目標 ✓ 配当を重視し、自己株式の取得は機動的に検討

（円）【一株当たり配当金・連結配当性向の推移】



注） 2015年4月1日を効力発生日として株式1株につき2株の株式分割を実施
2015年3月期までの数値は、株式分割前の実際の配当金の額を記載

自己株式の取得・消却状況

2018/3/2
50万株を取得

＋

2018/5/21
100万株を消却

▶

自己株式保有：357万株
（持株比率：4.0%）

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

- 利益の配分につきましては、研究開発や設備投資、M&Aや提携、人財育成など、将来の成長に必要な内部留保の確保に配慮しながら、長期にわたって、安定的な配当を継続することを基本方針としており、配当性向は30%以上を目標としています。

- 株主還元は、配当を重視しており、自己株式の取得につきましては、機動的に検討します。

- 次期の年間配当金は35円、配当性向は27%の予想です。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。
従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】経営戦略統括部
【連 絡 先】TEL03-5996-8003

NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved